

黒部で第九を歌う会

Kurobe
Symphony No. 9

[主催] 黒部で第九を歌う会・嶺北日本新聞社・北日本放送株・(公財)黒部市国際文化センター [共催] 黒部市
[後援] 黒部市教育委員会・黒部市芸術文化協会・黒部ライオンズクラブ・黒部ロータリークラブ・黒部中央ロータリークラブ
黒部で第九を歌う会事務局 黒部市三日市20 黒部市国際文化センター コラーレ内 Tel.0765-54-1339

「歓喜」は新幹線に乗って…

第12回 名水の里

第九コンサート



北陸新幹線開業記念
黒部・根室姉妹都市交流事業

Symphony No. 9

「歓喜」は新幹線に乗って…

北陸新幹線開業記念
黒部・根室姉妹都市交流事業

第12回 名水の里 第九コンサート

2015.4.26 SUN

【会場】黒部市国際文化センター コラーレ (カーターホール)

Program

♪第1部

曲 目 飯田三郎、田塚源太郎：交響組曲「北国讃歌」

指 揮 池本 昇

管 弦 楽 根室「北国讃歌」オーケストラ、富山シティフィルハーモニー管弦楽団

ソリスト 小笠原一規 (テノール)

合 唱 根室「北国讃歌」合唱団

♪第2部

曲 目 ベートーヴェン：交響曲第九番 二短調 作品125「合唱付」

指 揮 横島 勝人

管 弦 楽 富山シティフィルハーモニー管弦楽団

ソリスト 岩井 梨花 (ソプラノ)、小林 由佳 (メゾソプラノ)

望月 哲也 (テノール)、成田 博之 (バリトン)

合 唱 黒部で第九を歌う会合唱団



黒部で第九を歌う会会長

島倉 敏夫

ごあいさつ

黒部の第九コンサートは多くの皆さまのご支援を得て12回目となりました。そして今回は待ちに待った北陸新幹線開業を祝う記念コンサートです。開業当日3月14日の熱気は私たちの胸を熱くしました。また、今回は「北国讃歌」を歌う根室市の友人を迎えての合同コンサートでもあります。

私たちが黒部で第九を始めたのは、音楽で地域おこしをしたい、クラシック音楽愛好者の交流を増やしたい、そして地域文化活動にささやかな貢献をしたいとの願いからでした。今回はとりわけ新幹線開業の喜びを第九に乗せて歌い上げたい。そのために14名の団員は練習を重ねてきました。横島勝人先生の指揮のもと合唱団とオーケストラの醸し出す第九の音楽的空氣が聴衆の皆さまに波を与え、怒涛のように会場の一千人が一体となって感動の渦に浸るコンサートになれば嬉しく思います。

2011年3月に起きた東日本大震災の直後の4月、東京文化会館の震災鎮魂のコンサートで、第九が演奏されました。指揮者ズーピン・メータの「第九は人々に希望の光と勇気を与える音楽です。」とのコメントはその名演奏とともに忘れられません。そしてまた「第九は世界平和と友情を祈念する崇高な精神性を持つ音楽だ」という言葉を私達は信じています。昨今の地球社会はさまざまな脅威にさらされています。このような時代にこそベートーヴェンがシラーの詩を体現した音楽を作曲して「世界人類みな兄弟になろう」と主張した第九を高らかに歌う意義があるのだと確信しています。

ご来場の皆さま、主催共催の各社、ご協賛ご支援くださった皆さま、そしてオーケストラと合唱団の皆さまにこころから感謝いたします。

それでは根室市の皆さまによる「北国讃歌」と、黒部第九合唱団の「第九」をお楽しみください。

お祝いのことば

黒部で第九を歌う会の「第12回名水の里 第九コンサート」が、ここ黒部市で盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、平素から本市の芸術文化活動推進にご尽力を賜っておりますことに対しまして、厚くお礼申し上げます。

さて、「黒部で第九を歌う会」は、平成4年に設立され、平成5年5月にYKK体育館で開催されました第1回のコンサートを皮切りに、これまで11回の公演を重ねてこられました。

前回の11回目のコンサートにおいては、20周年記念として、ベートーヴェンの最後の交響曲とも呼ばれ記念碑的な大作である「交響曲第九番（合唱付）」を新たな思いで挑戦され、好評を博しました。団員の皆様か心をひとつにして歌い上げる姿は、聞くものを魅了し、あの時の大きな感動が今も心に刻み込まれております。

今回、12回目のコンサートは、北陸新幹線開業記念及び姉妹都市交流事業として、第1部では、姉妹都市である根室市よりオーケストラ・合唱団をお招きし、根室の交響組曲「北国讃歌」を、第2部では、黒部で第九を歌う会による「ベートーヴェン交響曲第九番」をご披露されるとのことです。

根室の「第九」とも言われる交響組曲「北国讃歌」は、根室市出身の飯田三郎様、田塚源太郎様が作詞・作曲され、これまで、指揮者の池本昇様のご指導のもと練習に励まれ、黒部で初めて披露される「北国讃歌」を市民挙げて楽しみにしております。

また、黒部で第九を歌う会による「ベートーヴェン交響曲第九番」につきましては、世界的にご活躍され、これまでのコンサートを成功に導いていただきました指揮者の横島勝人様、声楽家の内山太一様のご指導のもと練習に励まれ、これまでの皆様の地道なご努力と結束に敬意を表し、今回、初めての試みとなる合同コンサートに取り組みされますことに、大きな期待を寄せるものであります。

結びに、このコンサートの大成功をご祈念申し上げるとともに、コンサートを契機に黒部市・根室市の交流をさらに深めることにより、両市の芸術文化活動がますます進展するよう期待したいと思います。

さらに、長年ご支援、ご協力を賜っております関係団体、関係各位の皆様の一層のご発展と、皆様のご健勝ご多幸を心から祈念し、お祝いのことばといたします。

黒部市長

堀内 康男



お祝いのことば

黒部で第九を歌う会「第12回名水の里 第九コンサート」が黒部市において盛大に開催されますことに、根室市民を代表して心からお祝いを申し上げます。

また、堀内市長をはじめ黒部市民の皆様には、姉妹都市交流事業の推進はもとより北方領土返還要求運動の北陸の拠点として、格別なるご尽力、ご高配を賜り、心から敬意と感謝を申し上げます。

北陸新幹線が開業され、開業記念コンサートの開催を迎えられましたことは、ひとえに関係者皆様の熱意とご努力の賜物であり、さらなる発展を願うものであります。

この記念すべきコンサートに共に出演することは、参加する根室市民にとりまして大変な名誉であり、心よりお礼を申し上げます。

黒部市と根室市の結びつきは、明治初期に多くの黒部の先人が北方領土や根室を築き、北洋漁業の基地としたのが始まりであり、昭和51年には、姉妹都市提携を結び、両市市民がスポーツや文化を通じ、交流の輪を育み、その絆は揺らぐことのない強固なものに成長したところでもあります。

この度披露する交響組曲「北国讃歌」は、昭和43年の根室市開基100年にあたり制作され、いわば、「根室の第九」として根室市の貴重な音楽文化となっており、根室の四季を表すものとなっております。

参加される皆様の歌声、奏でる演奏が、これまで育み続けた友好の絆を、より強固で大きなものに進化させるものと期待しております。

終わりに、今後とも両市の限りのない発展のため、変わらぬご支援、ご指導をお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝を心からご祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

根室市長

長谷川 俊輔



ごあいさつ

「第12回名水の里 第九コンサート」を、「黒部で第九を歌う会」はじめ、関係の皆さまと一緒に開催できますことを喜び、本日も来場のお客さまに感謝申し上げます。

黒部で第九を歌う会は平成4年、北アルプスに連なる山々と美しい富山湾、恵み豊かな扇状地に抱かれた名水の里で、ベートーヴェン「第九交響曲」を演奏しようと設立されました。黒部の姉妹都市のアメリカ・メーコン市や、オランダ・スネーク市の市民合唱団との共演をはじめ、難曲といわれるモーツァルトの「レクイエム」の演奏に挑戦するなど、幅広い活動を繰り広げ、富山の音楽文化の発展に貢献しています。

歌う会は、昨年末、本演奏会に向けて合唱団結団式を行い、練習を重ねてきました。富山を代表する市民オーケストラ「富山シティフィルハーモニー管弦楽団」、ソプラノの岩井理花さん（黒部市出身）ら一流のソリストとともに歓喜のハーモニーを奏で、聴衆の皆さまを魅了することでしょう。また、今回、黒部の姉妹都市である北海道・根室市から「根室『北国讃歌』オーケストラ」のメンバーと、同市の合唱団員を招いて共演します。音楽を通じた交流の輪が広がり、地域間のつながりが一層強まるものと思われまます。

プログラム第1部の交響組曲「北国讃歌」は、根室の第九、と呼ばれ、地元で愛されている作品だと、うかがっています。根室の四季の美しさ、北国で生活する人々のたくましさや優しさが表現された名曲として知られています。本日の演奏会は「第九」とともに、北国の歓喜の歌、が響き渡り、会場は感動に包まれるものと期待しています。

黒部で第九を歌う会ははじめ、関係の皆さまのご尽力に敬意を表し、本演奏会の成功を祈り、ごあいさつといたします。

北日本新聞社代表取締役社長

板倉 均



ごあいさつ

「第12回名水の里 第九コンサート」が、このたび盛大に開催されますことをお祝い申し上げます。20年以上にわたる開催を通して地域活性化と音楽を愛する人々の心の交流に貢献しておられる「黒部で第九を歌う会」の皆さま方の熱意に心より敬意を表します。

初回から主催の一員に加えさせていただいております弊社としても大変誇りに感じております。

今回は、ご当地に停車する北陸新幹線の開業記念と北海道根室市との姉妹都市交流事業の一環として開催され、合唱団員は県内一円はもとより東京、兵庫など県外からも多数参加し例年以上の約150人に上ると聞いております。

プログラムの第1部で根室市で親しまれている「北国讃歌」を根室の合唱団が歌い上げ、第2部で第九が披露されます。黒部第九合唱団の皆さんは、去年12月の結団式以来、厳しい練習を重ねてこられました。期待が膨らみます。

きょうのコンサートでは第8回から指揮者をつとめる横島勝人さん（神奈川）の情熱的で繊細なタクトのもと、富山シティフィルハーモニーが奏でる管弦楽に合わせ、地元黒部市出身の岩井理花さんら4人のソリストとともに、歓喜の大合唱がここコラーレのホールに響き渡ると思います。

おわりに、開催にあたりご支援をいただいた黒部市をはじめ関係各位に心より御礼申し上げますとともに、コンサートのご盛会をお祈りいたします。

北日本放送代表取締役社長

横山 哲夫





Photo : Shigeto Imura

第九指揮者 横島 勝人

Katsuto Yokoshima

大阪生まれ。9歳よりピアノを始め、大阪音大在学中より指揮活動を始める。1990年ウィーン留学、ウィーン国立音楽大学でL.ハーガー、P.シュヴァルツ、湯浅勇治の各氏に師事。90年ウィーンマイスタークラス指揮セミナー、96年ハンガリー国立セゲド交響楽団主催セミナーでJ.カルマー、E.アッチェル各氏に師事。98年キリル・コンドラシン国際指揮者コンクールベスト8。99年ウィーン楽友協会ホールでトーン・クンストラ・響ペーター・ヴェン交響曲第9番を指揮。2001年、ウィーン郊外アイゼンシュタットで、ハイドン「天地創造」を指揮。03年ブラハ放送交響楽団を指揮、好評を博す。00年より小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトにおいてアシスタント及び合唱指揮。05年7月ドイツ ライプツィヒでのチャリティ・コンサートに出演、バッハ：「短調ミサ」と「第九」を指揮。06年9月、10月、ウィーンとブラハでモーツァルト生誕250年「レクイエム・ガラ」特別演奏会を指揮。08年3月、長野県松本市においてモーツァルトの交響曲全52曲を10年かけて演奏する「モーツァルト交響曲・全曲演奏会」スタート。09年2月には、紀尾井シンフォニエッタ東京第68回定期演奏会にてメンデルスゾーン：エリアの合唱指揮を務めた。(合唱：東京オペラシンガーズ)
2009年「国境なき合唱団」ベルリン公演でベルリン・シンフォニエッタを指揮して「第九」を演奏、2011年6月にはブラハで同合唱団と、引き続いてライプツィヒでそれぞれ「第九」を指揮。2013年1月、大阪フィルハーモニー交響楽団を指揮。現在、長野県松本市「モーツァルト交響曲・全曲演奏会」芸術監督、富山県宇奈月モーツァルト音楽祭芸術監督。

これまでに指揮したオーケストラ

- ・ハンガリー国立セゲド交響楽団
- ・マープ・ブダペスト交響楽団
- ・オランダ放送管弦楽団
- ・新日本フィルハーモニー交響楽団
- ・東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団
- ・大阪フィルハーモニー交響楽団
- ・大阪センチュリー交響楽団
- ・関西フィルハーモニー管弦楽団
- ・京都市交響楽団
- ・広島交響楽団
- ・岡山フィルハーモニック管弦楽団
- ・奈良フィルハーモニー管弦楽団
- ・東京佼成ウインドオーケストラ
- ・大阪市音楽団 他

Solist



岩井 理花 ソプラノ

Rika Iwai

黒部市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科および同大学院修了。第54回日本音楽コンクール、ティト・スキューパ国際声楽コンクール、第1回藤沢オペラコンクール等、国内外の数々のコンクールに入賞。ミラノから帰国後は日本を代表する指揮者（小澤征爾、故若杉弘、大野和士、故朝比奈隆etc.）と数多くのオペラやコンサートに出演し、成功を取っている。モーツァルトからヴェルディ、ワーグナーに至るまで幅広いレパートリーをこなす。「ワルキューレ」のジークリンデ、「マダム・バタフライ」のタイトルロール等で評価され、1995年ジロー・オペラ賞を受賞。最近ではヴェルディ「マクベス」のレディー役で大成功を取る。コンサートでは「第九」「メサイヤ」をはじめ、モーツァルト、ヴェルディ、フォーレ、ブラームスの各レクイエムのソリストとして、またNHK芸術劇場、題名のない音楽会、NHKFMクラシック、名曲アルバム等にも出演し放送されている。北日本新聞芸術奨励賞受賞。新川地区発展賞奨励賞を受賞。二期会会員。

Tetsuya Mochizuki

テノール 望月 哲也



東京藝大、同大学院オペラ科修了。安宅賞、松田トシ賞を受賞。NTTドコモ奨学金を授与。二期会オペラスタジオ修了。最優秀賞、川崎静子賞を受賞。第35回日伊声楽コンクール第3位入賞。第11回奏楽堂日本歌曲コンクール第2位入賞。第70回日本音楽コンクール第2位入賞。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。ウィーン国立音楽大学研究課程リート・オラトリオ科にて研鑽を積む。オペラでは2006年の《皇帝ティトの慈悲》における歌唱・演技は高い評価を得、ホーランド・レグニツァ市立劇場《魔笛》でヨーロッパデビュー。新国立劇場にも定期的に出演しており、2012-2013シーズンは《ピーター・グライムズ》《タンホイザー》《魔笛》《夜叉が池》（世界初演）と、シーズン最多の出演となった。2013年に《ワルキューレ》ジークムント役を演じ、よりドラマティックなレパートリーに取り組んでいる。宗教曲の分野では《マタイ受難曲》の福音史家をはじめ、レパートリーは30作品以上にもわたる。2009年より王子ホール主催《Wanderer・さすらい人》リサイタルシリーズを開始し、NHK「クラシック倶楽部」にて放送されている。鈴木寛一、A.ポーラ、E.ヘフリガー、W.ムーアの各氏に師事。二期会会員、聖徳大学兼任講師。



小林 由佳 メゾソプラノ

Yuka Kobayashi

茨城県出身。国立音楽大学卒業。同大学院修了。二期会オペラ研修所第42期マスタークラス修了。文化庁在外研修員としてイタリアに留学。これまで「フィガロの結婚」ケルビーノ、「ドン・カルロ」エポリ公女、「アイダ」アムネリス、「カルメン」等に出演。二期会では08年「ナクソス島のアリアドネ」で作曲家役を演じ、役柄にふさわしい爽やかな舞台姿と高い歌唱力が評価され、その後も宮本重門演出「ラ・トラヴィアータ」フローラ、演出家栗山昌良の高い要求に見事応えた「蝶々夫人」（タニエーレ・ルスティオーニ指揮）スズキ、K.グルーバーの奇抜な表現が話題を呼んだ二期会創立60周年記念公演「ドン・ジョヴァンニ」（沼尻竜典指揮）ドンナ・エルヴィーラ、「ホフマン物語」（ミシェル・プラッツン指揮/栗園淳演出）ではミューズ/ニクラウスの2役を演じ、瑞々しい歌唱と演技に満場の客席から大喝采がよせられた。また「第九」、「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、ドヴォルザーク「スターバト・マーテル」、マーラー「大地の歌」等のアルトソロを務める他、コンサートでも活躍しており、確かなディクッションと音楽性が高い評価を得ている。2015年6月新国立劇場「沈黙」少年役で出演予定。東京二期会会員。

Hiroyuki Narita

バリトン 成田 博之



国立音楽大学声楽科、同大学院オペラコース修了。文化庁オペラ研修所第10期修了。第8回日本音楽コンクール1位。第69回日本音楽コンクール3位。第5回藤沢オペラコンクール2位。2003年ミトローポロス国際声楽コンクール（アテネ）最高位。文化庁芸術家在外派遣研修にてイタリア・ボローニャに留学。錦織健プロデュース・オペラ「愛の妙薬」ベルコーレ、佐渡裕プロデュース・オペラ「カルメン」エスカミーリオ、新国立劇場「西部の娘」ベッコ、「アンドレア・シェニエ」ルシェー、「沈黙」バリニャーノ、「愛の妙薬」ベルコーレ、「蝶々夫人」シャープレス、「ラ・ボエーム」マルチェッロ、「カヴァレリア・ルスティカーナ」アルフィオ、「リゴレット」マルッコ、二期会オペラ「ラ・ボエーム」マルチェッロ、「ドン・カルロ」ロドリゴ、「リゴレット」リゴレット等に出演。オペラ歌手によるクラシカル・クロスオーバー「The JADE ザ・ジェイド」のメンバー。CD「手紙」「リヴァイブ」NHKみんなのうた「くじらのあくび」「成田博之バリトン・リサイタル2012」をリリース。国立音楽大学、尚美学園大学講師。東京二期会会員。

根室「北国讃歌」

池本 昇 北国讃歌指揮者

Noboru Ikemoto



昭和37年根室市生まれ、根室西高等学校入学と同時に吹奏楽部にて活動を始める（トロンボーン奏者）。昭和57年に根室市民吹奏楽団に入団、トロンボーン及びホルン奏者として在籍、在籍中に当時の市民吹奏楽団指揮者、野宮敏明氏に師事し指揮法を学び、平成2年より市民吹奏楽団の指揮を執る（現在は奏者として在籍）。又現在のストリングス（弦楽合奏団）の立ち上げにピオラとして参加し、現在は指揮者として活動。平成16年に活動を始めたジュニアアンサンブル根室には指導者及び編曲者として参加し次世代の弦楽器奏者の育成に尽力する。公民館事業としてのバイオリン講座で指導者として参加、講座の卒業生により立ち上げた大人の弦楽サークルピチカートに参加、又トロンボーン奏者として地元根室のイースト・ポイント・ジャズ・オーケストラに参加し平成23年度にはメンバーと共に黒部市を訪れている。北国讃歌は平成3年の根室市文化祭音楽大会で初めて指揮を執り、以後同音楽大会での、北国讃歌の指揮を務めている。又平成5年の根室市総合文化会館のこけら落とし、平成19年の根室市市制施行50周年記念式典での北国讃歌の指揮を務めた。

Solist

Kazuki Ogasawara

テノール 小笠原一規

北海道根室市に生まれる。武蔵野音楽大学音楽学部音楽学科卒業。2004年より渡伊。イタリアミラノ音楽学校にてディプロマ取得、イタリアミラノマルツィアーリ音楽院マスターセミナー修了。第51回瀧廉太郎音楽祭全日本高等学校声楽コンクール優秀賞、2002年全日本学生声楽コンクール奨励賞、2005年SCUOLA MUSICARE MIRANO国際声楽コンクール入選、2010年PMF音楽祭PMFシンガーズ合格、13年・14年ともにイタリア声楽コンクール・シエナ部門フィナリスタ。声楽をアルベルト・クビード、黒田安紀子に師事。テノール・リリコ・スピントの強い声を持ち、オペラ『トゥーランドット』、『蝶々夫人』、『ラ・ボエーム』、『カルメン』では主役テノールを演じている。近年ではパシフィック・ミュージック・フェスティバル2010にてオペラ『ラ・ボエーム』のロドルフォ役として、現メトロポリタンオペラ首席指揮者ファビオ・ルイーゼ氏と共に札幌コンサートホールKitara、東京オペラシティコンサートホールにて共演。2014年秋に再び渡伊。イタリアジェノヴァ国立クラリッセ劇場にてデビューを飾る。また、昭和45年から続く根室市文化祭音楽大会の北国讃歌ではテノールソロを務める。KAZU ART PRODUCTION(術代表、小笠原音楽教室主宰、十勝室内合唱団主宰・指揮者、北海道若手新人音楽家育成プロジェクト代表、藤原歌劇団準団員、埼玉県在住。



■オーケストラについて

根室市内で活動している根室市民吹奏楽団、ストリングス、ピチカートの3団体と、市民有志からなる、黒部市で「北国讃歌」を演奏するために編成されたオーケストラです。

■合唱団について

根室市内で活動している根室混声合唱団クール・エコー、根室ほほえみコーラス（女声）、シルバーコーラス根室コール・スワン（女声）、根室男声合唱団トルバドール（女声）の4団体と、市民有志からなる、黒部市で「北国讃歌」を演奏するために編成された合唱団です。



Violin	熊谷 恵介 山本みゆき 藤原 祐美	笹木 悦子 神 可南 犬童 千陽	岩崎 園子 池本 創太
Viola	丸山 るり	魚谷久美子	池本 優真
Contrabass	丸山 一之		
Horn	鹿谷 智絵		
Trumpet	富樫 悠子		
Trombone	本田 俊治	犬童 栄	
Tuba	齋藤 信		
Percussion	井平 雄司	平瀬 卓也	齋藤 永仁
合唱	野田 敏 坂下マツエ 鹿谷 利子 森 栄子 五十嵐弘子 木村 幸子 五十嵐貴子 能登美恵子 大塚まり子 高橋 佳伸 岩本 忠 原田 純子 高橋かおり 高岩登美子	富樫 亮介 大目千枝子 鶴木 幸子 水野美年子 長谷川千鶴子 宝力 潤子 石垣千重子 金子 弘子 田村 恭子 高橋 隆一 鈴木 健太 富山 末子 上野キヨ子 小笠原規夫	羽澤 薫 河田マサ子 谷内田きよ子 櫻見 政子 浜崎智恵子 桐沢 藍根 西田美智子 竹田 恵子 田村 昌也 鈴木 一彦 菅原 幸子 北村 亨子 藤井 康雄
黒部市	伊東 景治 飯田 憲司	田中 哲彦 藤井 実	宮崎 昌訓 米田 幹雄

■根室市のいま

【沿革】市名「根室」はアイヌ語「ニムオロ（樹木の繁茂する所の意）」から転化したものと言われている。明治2年開拓使庁根室出張所を設置。同13年根室戸長役場を設置。同33年7月一級町村制施行、町名を「根室町」とした。昭和32年8月根室町と和田村を合併し、根室市を設置。同34年4月歯舞村を合併。同38年8月浜中村の一部を編入。



【面積】512.72km²

【人口、世帯数】平成27年2月末現在の人口は27,989人。人口は、昭和50年国勢調査の45,817人をピークに、出生数の低下や転出者の増加などにより減少傾向が続いている。



空から見た根室市（手前は根室港）

【観光】北方領土を望む納沙布岬、野鳥の宝庫である春国岱や風蓮湖をはじめとした貴重な自然、国指定史跡である西月ヶ岡遺跡や日本100名城に認定された根室半島チャシ跡群等の文化遺産、サンマ、花咲ガニ、昆布等の新鮮な水産物といった地域資源が豊富に存在する。

【気象】春から夏にかけて海霧が発生し、夏は涼しく海岸部では「夏がない」とも言われる。秋から冬にかけて晴天が続く、降雪量は北海道の中では山沿いを除き一般的に少ない。都市化の影響が少ない地点として、日本の平均気温の算出地点の一つに使われている。

【漁業】根室市は水産や流通の拠点として長い歴史を刻んできており、戦後の北洋サケマス漁をはじめ世界有数の漁場を控える漁船漁業の基地として隆盛を誇った。現在でも国内のサンマ漁の主要な水揚げ港として、漁業界では重要な地位にある。

【ふるさと納税】根室市では平成20年度から「根室市ふるさと応援基金」を設置し、これまで613件、93,937,153円（平成27年3月時点）のご厚意をいただいております。現在、ご寄付いただいた方には根室市内のサークル団体が作成した根室の花を用いた「菜（しおり）」の他、北方領土返還運動に関する事業にご寄付いただいた方には根室産昆布を使用した「昆布茶」をお送りしております。平成27年6月からは、お礼の品を一新し、サンマやカニなどの地元特産品のPRを兼ねた記念品を贈呈する予定となっております。ぜひとも多くのおみなさまからの温かいご支援をお待ちしております。

- 【根室の特産品】
- ・地酒「北の勝」
 - ・オリエンタルライス
 - ・オランダせんべい
 - ・根室さんまロール寿司
 - ・エスカロップ
 - ・花咲ガニ
 - ・てっぼう汁

【主なイベント（年間行事）】

- 7月 ねむろ港まつり
- 8月 金刀比羅神社例大祭
- 8月 北方領土納沙布岬マラソン大会
- 9月 根室かに祭り
- 9月 北方領土まで歩こう会
- 9月 根室さんま祭り
- 10月 根室産業フェスティバル
- 1月 納沙布岬初日詣
- 2月 ニムオロ冬の祭典
- 2月 ねむろパードランドフェスティバル



根室かに祭り（毎年9月盛大に開催される）と花咲ガニのゆで上げ実演



富山シティフィルハーモニー管弦楽団



1983年結成。一昨年、創立30周年を迎える。以来、県民に愛されるオーケストラを目指して音楽活動を展開している。

団員は現在約100名で、週1回の練習には県内及び県外から活動拠点である富山市民芸術創造センターに集まってくる。練習はアットホームな雰囲気、団員の参加率は非常に高い。団員の中には子育て真っ最中という人も多いため、託児室を設けて活動をサポートしている。

年3〜4回の演奏会を実施しており、自主演奏会では若い世代の方が来場しやすいよう高校生以下無料で開催している。

2012年に富山県が制作した久石譲作曲の富山県ふるさとの歌「ふるさとの空」のCD録音において、管弦楽版の演奏を担当。一昨年5月に開催された、置県130年記念式典においても、演奏を披露した。

平成25年度北日本新聞地域社会賞受賞。

メンバー

1st Violin	宮本 範子 (コンサートマスター)							
	中川 洋司 名執 純子	赤田 美賀 又場 龍大	阿閉 博美 松本 タエ	田中 緑 矢野 紗希	辻 久直	廣田 弘美		
2nd Violin	朝木 晴美 沼田 典子	荒木 祐士 原 朝子	石川 静 松下 亮	河原 毅 吉澤 歩希	塩崎 章子 吉澤 真弓	高野 祐花 米澤由佳子		
	河原千佳子 藤井 優哉	久保悠希乃 前川 仁志	篠原美奈子 松島真二郎	高田 亮二 吉田 彰	中 秀晃			
Viola	石井 久美 西谷 英輔	岡田 彰 堀田 五月	島田 育子 松島健一郎	島田 一恵 山崎 典子	新町 栄一	館野 祥子		
	石川 綾 柳橋 禎子	大西 遼 吉澤 克仁	高沢 昌芳	中上 桂一	長谷 英寿	藤島 晃彦		
Flute	摺出寺敬子	竹森 恵美	吉澤美和子					
Oboe	北岡 明	保科 浩一	古田 祥子					
Clarinet	住吉友紀子	横井 省二	宮崎 栞					
Fagotto	牛嶋 裕	岡田 健太	篠崎 秀一					
Horn	川添 等	坂井 禎	宅美 俊史	野崎 美保	花房奈央子	安川 哲二		
Trumpet	荒野 晃代	古井 清紀						
Trombone	大田 昭男	大田 和樹	熊木 雅之	沼田 典明				
Percussion	女川 好野	塩田 惇	高本 篤志	花房 清直				

Chorus 黒部で第九を歌う会合唱団

ソプラノ	飯田 舞子	稲垣 広子	魚津 昭子	魚谷 洋子	大井 友泉	大田ゆか子
	大津 茂子	小熊 房江	角本 睦子	兼平 朋子	河合 弘子	川尻久美子
	桐 富子	轡田 奈々子	越 秀子	小島 好子	桜井 公子	沢田 明梨
	柴田亜希乃	島 加代子	杉澤 禎子	高倉 隆子	高見 玲子	棚辺絵梨香
寺島 紀子	中島 弘美	長田 雅子	西尾 貴子	能沢 一代	長谷川茉莉	
晴披 富子	平野 朝子	淵上 聖子	松島 雅代	三井 香	村田美紀子	
村椿 尚美	森山 静子	山本 賢美				
アルト	青木 昭子	伊垣美知子	石川 和子	泉 邦子	伊藤ひでみ	
	稲場千恵子	岩井 清美	太田美恵子	大坪由美子	大橋 香苗	
	奥村 祐子	門脇 和子	亀田 良子	亀谷やす子	上坂由美子	
	小坂 里香	小林 聖子	鮫澤由加利	沢泉 好美	沢田 恵	
	島瀬 節子	清水香津子	鈴木 信子	其竹 有希	鷹田由美子	
	竹内美和子	立野 富子	谷口 昭子	塚田実知代	寺田 栄子	
	道用 悦子	得能真智子	中坂 陽子	中島二美子	中田 勝代	
	西岡 正子	花岡 光子	林 ひみ子	広川 順子	広川 由梨	
	藤原 尚子	舟川 敦子	堀川寿美恵	前田 ふさ	前田富美子	
	松村美智代	湊屋真津代	村瀬 靖子	村椿 律子	森内 正巳	
	安原 麗子	山瀬由美子	余西 典子			
テナー	井内 学	伊垣 幸雄	石川 幹夫	石塚 修一	伊東 景治	
	伊東 博幸	植木 真人	上田 健治	上田 洋一	太田 紘子	
	大津 陸郎	大野 久芳	経 隆紀	黒林 茂	上坂 芳弘	
	田中 哲彦	南保 弘幸	西田 真一	八川 進	林 勇治郎	
	広田 克美	福島 光繁	福田 茂信	舟川 正範	松倉 正機	
	松原 英樹	宮崎 昌訓	米澤憲二郎	米沢 良		
バス	青木 修平	飯田 憲司	泉 増久	大角 正	鍛冶 哲郎	
	小西 由郎	島倉 敏夫	鈴木 富保	高橋 興一	中 毅士	
	長谷川光一	広野 誠	藤井 実	松谷 茂樹	湊 千洋	
	米田 幹雄	米田隆太郎	Lachapelle Ugo Jose			
池本 昇 (根室市)		鈴木 一規 (根室市)				
合唱指導	内山 太一	三井 香	中田 勝代			
合唱ピアノ伴奏	間部 栄司					
協力合唱団	黒部混声グロリア	入善混声合唱団	カララッチョ女声合唱団	カンターレ		
	K&クルー	ホールデコーラス	コールあさひ	合唱団「Mitu」		
	東京合唱団	みなと第九を歌う会	コープこうべ第九合唱団			



Program Note 曲目解説

交響組曲 北国讃歌

飯田三郎 作詩、作曲 / 2・5 楽章のみ田塚源太郎：作詩 1968年作

◆歌 詩

第1楽章

序曲

粉雪吹き荒れて 北国の海は今日も暗く
夜明けの空に 祈り込めてふるさとの歌を

第2楽章

集い

エンヤサ エンヤサ エンヤサ エンヤサ ホイ ホイ
氷流れてみなとがあいて かもめ船頭さんについてった ホイホイ
ガスの晴れ間のやん衆の声に ハマナスほんのり紅さした ホイホイ

第3楽章

霧に寄せるハミング

霧が降る心の中に 霧が降る降る
霧が降る吐息にゆれて 霧が降る降る

第4楽章

テシロップ

A

テシロップ テシロップ テシロップ テシロップ
しばれる しばれる 町も丘も しばれる 町も丘も しばれる
テシロップ テシロップ テシロップ しばれる アーアーアー

B

つららが泣いたよ つららが泣いたよ
テシロップ テシロップ 風にきいたよ

第5楽章

讃歌

〈独唱〉

七つ星きらめく空に 高らかにかがり火あげよ
潮鳴りの絶えぬ渚に 鍛えたる声も声もおとりて
ふるさとの歌を 歌を

〈合唱〉

七つ星きらめく空に 高らかにかがり火あげよ
ふるさとの歌をうたおう ふるさとの歌をうたおう
ふるさとの歌を歌を うたおう！

(注) テシロップ=アイヌ語、海水が氷結する前のどろりとした状態

〔解説〕

北国の哀愁と自然に対する人々の強い意志をテーマに、
試練に耐える自信と郷土愛を高らかに謳った
5楽章からなる作品

交響組曲「北国讃歌」について

1968年の「根室市開基100年」にあたり、「ここに幸あり」で有名な郷土出身の作曲家・飯田三郎と、同じく郷土の詩人・田塚源太郎により作られた交響組曲。初演以来、根室市文化祭音楽大会などを中心に毎年のように演奏され、いまや「北国讃歌」は、“根室の第九”といわれるように、根室市民の心のうたとなっています。

「北国讃歌」は5つの楽章から成り立っており、それぞれが根室の四季を表しています。

第1楽章「序曲」

冒頭に北国の哀愁と、自然に対する人々の強い意志のテーマが金管で力強く演奏されます。さらにそのメロディーがカノンとなって演奏されて、急激な半音に転調され、合唱が入ります。ファンファーレ風な中にテーマの変形がついており、合唱で強い意志を主張するかのようなテーマの断片を繰り返して、次第に高潮したムードになります。暗い感じのメロディーが前述の不安を表現するかのようには演奏されますが、北国の人々の何物にも屈しない力と、哀愁を帯びたメロディーが合唱によって盛り上げられて終わります。

第2楽章「集い」

明るく楽しい楽章で、男声のエンヤサエンヤサをバックに、ヤン衆や女工さんたちの躍動的な情景を歌った、ロシアのコザックダンスにも似た、リズムカルな調子の楽章です。

第3楽章「霧に寄せるハミング」

根室地方独特の、潮の香りを伴って流れてくる霧を歌った、ハミングを主体としたロマンス風の楽章です。

第4楽章「テシロップ」

冬の凍りつく感じの、半音階のメロディーを合唱のハミングで導入部として、すぐ6/8拍子の速いテンポの合唱となり、「テシロップ」の繰り返しをバックにソプラノとテナーが「しばれる」というだけの歌詩で歌います。中間部に静かな感じで「つららが泣いたよ」という歌詩によるメロディーが、女声合唱でかわいらしく長調で歌われ、再び最初の速いテンポに戻ってコーダに入ります。

第5楽章「讃歌」

全合奏による力強い感じが次第に落ち着いてきて、前奏風に讃歌のメロディーを演奏します。そして、テナーの独唱となります。「七つ星きらめく空に 高らかにかがり火あげよ 潮鳴りの絶えぬ渚に 鍛えたる声もおとりて ふるさとの歌を」高潮したテナーの独唱が終わると、混声合唱で多音的に同じメロディーが演奏されます。金管楽器が再び第1楽章の「序曲」のテーマを、やはり多音的に混声合唱と演奏し、次第に讃歌のムードを強調して、人々の試練に耐える自信と郷土愛を高らかに歌って全楽章を終わります。

歓喜の歌

《ベートーヴェンの自作》

おお、友よ、この音楽ではない。
もったところよい、
もっと喜びに満ちた音楽を、
われわれはかなでよる。

《F. シラー原詩》

喜びよ、美しい神々の火花よ、至福の島のエリージウムの娘よ、
われわれは火のように酔いしれて、崇高なところ、おまえの聖所へ踏み入る。
おまえの魔力は世のならわしがきびしく別けへだてたものを
ふたたび結び合わせ、すべての人びとは
おまえのやさしい翼のやすらうところに兄弟となる。
一人の友の友となる大きな成功を得たものは、
やさしい妻をかち得たものは地上にただ一つの魂でも
自分のものと呼ぶ者は、その歓喜をともにせよ。
そしてそれらができなかった者は、
泣きながらひそかにこの仲間から立ち去るがよい。

すべてのものは自然の乳房から喜びを飲む。

すべての善いものも、すべての悪いものも、

自然のバラ色の道を辿ってゆく。自然はわれわれに接吻を与え、

ぶどうと、死の試を経た友を与えた。快樂は虫に与えられた。

そして光の天使ケルブは神の前に立つ。うれし気にひかりかがやく太陽が

壮麗な天界をわたるように、兄弟たちよ、

英雄が勝利に向かってすすむように、きみたちの道を喜ばしく進め。

数百万のひとびとよ、抱き合え。この接吻を、全世界へ。

天空のあなたに愛する父が住んでいるにちがいない。

きみたちはひざまづくか、

数百万のひとびとよ。

創造主に気付くか、世界よ。

天空のかあなたに創造主を求めよ。

星の彼方に彼は住んでいるに違いない。

O Freunde, nicht diese Töne!

Sondern laßt uns angenehmere
anstimmen, und freudenvollere.

Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken, Himmlische, dein Heiligtum!

Deine Zauber binden wieder, was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder, wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der große Wurf gelungen, Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen, Mische seinen Jubel ein!
Ja, wer auch nur eine Seele sein nennt auf dem Erdenrund!

Und wer's nie gekonnt, der stehle,
Weinend sich aus diesem Bund!

Freude trinken alle Wesen, an den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen Folgen ihrer Rosenspur

Küsse gab sie uns und Reben, Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben, Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen, fliegen durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet! Brüder, eure Bahn, freudig, wie ein Held zum Siegn.

Seid umschlungen, Millionen! Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder! überm Sternenzelt muß ein lieber Vater wohnen.

Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such' ihn überm Sternenzelt!

Über Sternen muß er wohnen.

Program Note 曲目解説

交響曲第九番ニ短調 作品125「合唱付」

ベートーヴェン最後の交響曲は、ロンドンのフィルハーモニー協会から新曲の依頼を受けて1822年10月から書き始められ1824年にはほぼ完成していた。並行して作曲された第七番、第八番から10年後のことである。当時としては類を見ない長さで、声楽を伴うという異例の曲であった。第4楽章の歌詞となるシラーの詩をベートーヴェンが知ったのは1792年、彼が22歳の頃である。実に構想30年となる。

さて、完成したこの交響曲は1824年5月7日にウィーンのケルトナートーア劇場（現在のウィーン国立歌劇場の前身）で初演された。耳の聞こえないベートーヴェンが舞台で総指揮をしたものの、実際の指揮は楽長のウムフラウが担当した。終演後、嵐のような喝采が起こったがベートーヴェンは気付かない。アルト歌手のウンガーが客席の方に向かせ、ようやくその大成功に気付いたという有名なエピソードが残されている。

彼の死後、メンデルスゾーンやベルリオーズ、リスト、ワーグナー、マーラーらの大作曲家や、トスカニーニ、フルトヴェングラー、ワルター、カラヤン、バーンスタインらの大指揮者がこの曲の伝道師として、この曲に確固たる地位を与えていった。そして、今では、この曲はいろいろな機会に演奏されている。日本のように大晦日に演奏される場合もあれば、新年に演奏される国もある。祝祭の曲（バイロイト音楽祭の再開記念やベルリンフィルハーモニーの新しいホールの落成記念で演奏された）として演奏されたり、鎮魂の曲（東日本大震災のチャリティコンサートで演奏された）として演奏されたりもする。このような懐の深さをもつ曲は他に存在しないのではないだろうか。

2001年9月4日、ベルリン国立図書館が所蔵する、かつてプロイセン国王に献呈された「第九」の楽譜が、ユネスコの世界遺産の「世界の記録」部門に指定された。かくして「第九」は文字通り人類の遺産になったのである。

◆第1楽章 Allegro ma non troppo un poco maestoso

ソナタ形式をとるこの楽章は、神秘的な導入部に閃光のような第1主題が続く。美しい第2主題も交えながら、大きなスケールで展開していく。

◆第2楽章 Molto vivace

オクターブに調律されたティンパニが活躍する熱狂的な三部形式のスケルツォ。中間部は一転して、牧歌的な気分になる。その後スケルツォ部に戻り、狂乱のうちに楽章を閉じる。

◆第3楽章 Adagio molto e cantabile

ベートーヴェンが書いたもっとも崇高な音楽といえるこの楽章は変奏曲の形式をとっている。安らかな音楽が続く中、突然最後の審判を告げるラッパのファンファーレが鳴り響く。続く楽章への前ぶれなのだろうか。

◆第4楽章 Prest-Allegro assai

不協和音からなる導入部に続く低弦のレチタティーボが前の3つの楽章の主題を否定して歓喜の主題を導く。曲が盛り上がったところで、再び導入の不協和音が登場して、バリトンのソロが「おお、友よ、この調べではなく」と切り出し、シラーの詩を合唱とともに歌い上げていく。いったん静まったあと、行進曲となり、今度はテナーのソロがリードする。その後「抱き合おう、もろびとよ」と厳かな合唱部分を経て、最大のクライマックスである二重フーガが出現する。コーダは速度を上げ、プレスティッシモで結ばれる。



「交響曲第九番」が初演された、ウィーンのケルトナートーア劇場。

黒部第九友の会会員

青木 昭子 第九を歌う会	島 加代子 第九を歌う会	福 島 光 繁 第九を歌う会
石塚 修一 第九を歌う会	島 倉 敏 夫 第九を歌う会会長	福 上 聖 子 第九を歌う会
泉 邦子 第九を歌う会	島 瀬 節 子 第九を歌う会	舟 川 敦 子 第九を歌う会
伊東 景治 第九を歌う会理事	高 岡 尚 子 第九を歌う会理事	前 田 ふ さ 第九を歌う会理事
稲場 千恵子 第九を歌う会	鷹 田 由美子 第九を歌う会	松 村 美智代 第九を歌う会
岩井 恵澄 (福あい七福祉会理事長) 第九を歌う会理事	立 野 富 子 第九を歌う会	三 井 香 第九を歌う会顧問
岩井 清美 第九を歌う会理事	田 中 哲 彦 第九を歌う会	湊 千 洋 第九を歌う会
奥村 祐子 第九を歌う会	辻 和 夫 第九を歌う会理事	湊 屋 真津代 第九を歌う会
角本 睦子 第九を歌う会	中 坂 陽 子 第九を歌う会	宮 崎 昌 訓 第九を歌う会
亀田 良子 第九を歌う会	中 島 弘 美 第九を歌う会	村 瀬 靖 子 第九を歌う会
河合 弘子 第九を歌う会	中 南 保 弘 幸 第九を歌う会監事	村 田 美紀子 第九を歌う会
川尻 久美子 第九を歌う会理事	西 尾 貴 子 第九を歌う会	森 山 静 子 第九を歌う会
経 隆 紀 第九を歌う会	西 田 真 一 第九を歌う会	安 原 麗 子 第九を歌う会
桐 富 子 第九を歌う会	花 岡 光 子 第九を歌う会	山 瀬 由美子 第九を歌う会
上坂 芳弘 第九を歌う会	晴 被 富 子 第九を歌う会	余 西 典 子 第九を歌う会
小島 好子 第九を歌う会	広 川 順 子 第九を歌う会	米 田 幹 雄 第九を歌う会
坂本 利子 元第九を歌う会	広 川 由 梨 第九を歌う会	
沢 泉 好 美 第九を歌う会	広 田 克 美 第九を歌う会	(五十音順・敬称略)

黒部で第九を歌う会役員

会 長	島倉 敏夫			
副 会 長	松倉 正機	上田 洋一	篠崎 秀一	三井 適夫
理 事	石川 幹夫	伊東 景治	岩井 清美	川尻久美子 杉澤 禎子
	高岡 尚子	辻 和夫	中田 勝代	能登 恭子 広野 誠
	前田 ふさ			
監 事	南保 弘幸	鯨澤 祐二 ((公財)黒部市国際文化センター事務局長)		
顧 問	堀内 康男	宮腰 光寛	大野 久芳	横山 栄 能勢 実
	武藤 憲夫	三井 香		



黒部で第九を歌う会 名水の里コンサートのあゆみ

設立：1992年（平成4）6月30日

	開催日	場 所	合唱団員	指揮者・ソリスト	オーケストラ	開催テーマ
第1回	1993年 H5.5.30	YKK体育館	第九を歌う会 189名	土井 浩 岩井 理花 岩森 美里 福井 敬 高橋 啓三	国際ピアノデュオ協会 20名	"名水の里に響け！ 喜びのハーモニー"
第2回	1994年 H6.6.12	YKK体育館	第九を歌う会 155名	ラヨシュ・パログ 岩井 理花 岩森 美里 五十嵐 修 高橋 啓三	富山県青少年オーケストラ・メトロポリタン・ユースシンフォニー	国際交流音楽祭 黒部市制40周年記念 (カラーレオーブンイベント)
第3回	1996年 H8.1.14	カラーレ	第九を歌う会 138名 メーコン市民合唱団 16名	十東 尚宏 岩井 理花 岩森 美里 五十嵐 修 高橋 啓三	東京シティ・フィル ハーモニック管弦楽団	国際交流音楽祭 (カラーレオーブンイベント)
第4回	1997年 H9.2.9	カラーレ	第九を歌う会 137名 スネーク市民合唱団 16名	十東 尚宏 岩井 理花 青山 智英子 成田 勝美 高橋 啓三	東京シティ・フィル ハーモニック管弦楽団	国際交流音楽祭
第5回	1998年 H10.4.18	カラーレ	第九を歌う会 135名 メーコン市民合唱団 16名	十東 尚宏 岩井 理花 永井 和子 五十嵐 修 勝部 太	群馬交響楽団	くろべ「はな」まつり 国際交流音楽祭
第6回	2002年 H14.1.14	カラーレ	第九を歌う会 115名	エイリアン・ナム 岩井 理花 安念千重子 五十嵐 修 大澤 建	富山シティフィルハー モニーク管弦楽団	国際交流音楽祭
米国 メーコン市 特別公演	2003年 H15.3.22	米国 メーコン グランドオペラハウス	メーコン市民合唱団 第九を歌う会 37名	エイリアン・ナム 岩井 理花 メーコン・ソリスト	メーコンシンフォニー オーケストラ	黒部市メーコン市姉妹都市交流 Macon cherry blossom festival
第7回	2004年 H16.11.7	カラーレ	第九を歌う会 119名 スネーク市民合唱団 8名 根室市 2名	エイリアン・ナム 岩井 理花 坂口 直子 五十嵐 修 末吉 利行	富山シティフィルハー モニーク管弦楽団	黒部市制50周年記念 北日本新聞創刊120周年記念
第8回	2006年 H18.12.17	カラーレ	第九を歌う会 115名	横島 勝人 岩井 理花 坂口 直子 伊達 英二 水野 賢司	富山シティフィルハー モニーク管弦楽団 合唱指導：浅岡節夫・三井香	黒部市合併記念事業
第9回	2008年 H20.12.14	カラーレ	第九を歌う会 モツレク合唱団 115名	横島 勝人 岩井 理花 長谷川 忍 西村 悟 谷 友博	富山シティフィルハー モニーク管弦楽団 合唱指導：内山太一	モーツァルトレクイエム特別公演
第10回	2010年 H22.11.28	カラーレ	第九を歌う会 モツレク合唱団 108名	横島 勝人 岩井 理花 日野 妙果 内山 信吾 谷 友博	富山シティフィルハー モニーク管弦楽団 合唱指導：内山太一	モーツァルトレクイエム特別公演 第10回記念コンサート
第11回	2013年 H25.5.19	カラーレ	第九を歌う会 112名	横島 勝人 岩井 理花 菅野 祥子 井ノ上 史 谷 友博	富山シティフィルハー モニーク管弦楽団 合唱指導：内山太一	黒部の第九 20周年記念コンサート
第12回	2015年 H27.4.26	カラーレ	第九を歌う会 141名(予定)	横島 勝人 岩井 理花 小林 由佳 望月 哲也 成田 博之	富山シティフィルハー モニーク管弦楽団 合唱指導：内山太一、 三井 香、中田勝代	北陸新幹線開業記念 黒部・根室姉妹都市交流事業

皆さまのあたたかいご支援により、
第九コンサートを開催することができました。

(株)四十物昆布	黒部市芸術文化協会	(株)ホクペレ
生地温泉たなかや	(株)黒部重機	(株)ホテルアクア黒部
生地蒲鉾(有)	黒部中央ロータリークラブ	(株)堀内商会
うめかわ歯科クリニック	黒部ロータリークラブ	松倉建設(株)
(株)エムエスピー	桜井交通(株)	松原工業(有)
おおの衣料店	(有)新徳興業	丸田石材工業(株)
小熊歯科医院	東洋ゼンマイ(株)	(株)山口技研
女川清(女川歯科医院)	(株)ナカノ	吉枝工業(株)
(有)カーメンテナンス朝倉	パレス扇寿	吉沢工業(株)
カフェ モーツァルト	(株)飯作組	(株)吉田商会
共和土木(株)	平野工務店(株)	
銀盤酒造(株)	北星ゴム工業(株)	

(株)植万 黒部市三日市3646 ☎0765-52-0229	川端鐵工(株) 黒部市生地芦区247 ☎0765-56-8163	きょうクリニック 黒部市北野48-2 ☎0765-57-0015
(有)松倉呉服店 黒部市三日市3117 ☎0765-54-0529	丸中水産(株) 黒部市生地芦崎字下浦330 ☎0765-56-9138	(株)ミツイ 黒部市中新398 ☎0765-52-0092
黒部エムテック(株) 黒部市吉田200 ☎0765-54-8665	黒部クリーン(株) 黒部市北野47-2 ☎0765-52-0047	黒部ライオンズクラブ 黒部市新牧野103 ファーストビル2F ☎0765-54-1026
桜井建設(株) 黒部市新町1 ☎0765-52-1200	(株)すがの印刷 黒部市若栗2630 ☎0765-54-0112	第一建設(株) 黒部市飯沢1077 ☎0765-56-8125
(株)ニイカワポータル 黒部市新牧野152 ☎0765-54-5355	北陸機材(株) 富山市綾田町1-6-22 ☎076-441-5411	



黒部金融協会

北陸銀行黒部支店
富山銀行黒部支店
黒部市信用農業協同組合
北陸労働金庫黒部支店

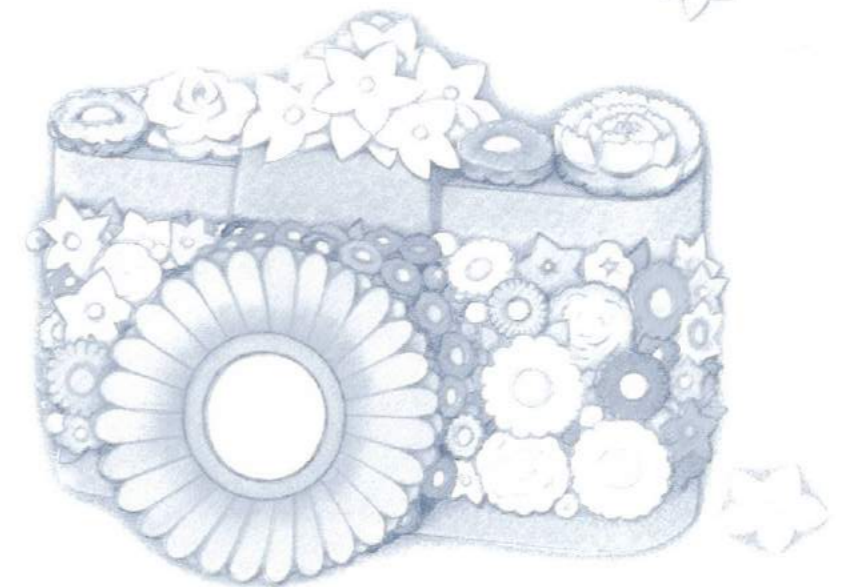
富山第一銀行黒部支店
にいかわ信用金庫桜井支店
黒部農業協同組合

北日本新聞社

富山市安住町2-14 ☎076-445-3300

まなざし、ひとつ。

見つめる先は、
豊かな明日をかなえる、
ものづくり。
小さな発見から、
大きな笑顔が生まれます。



YKK株式会社

米田 幹雄